

1 大事な動詞は主語の直後

どれが一番大事な動詞かに注意しながら，下線部を訳しなさい。

California is a dry state. It rarely rains there.

One time there was a serious water shortage in the summer. A man in the sanitation department of the local state government came up with an idea which would work with American people whose love for the shower is well known. The department sent posters to every house and asked people to put them up in the bathroom. The poster said: SING SHORTER SONGS IN THE SHOWER.

< 語句・構文 >

dry state「雨の少ない州」 It rarely rains there.の It は天候の It. rarely「滅多に～ない」口語のアメリカ英語では同じ意味の seldom より rarely のほうがよく使われる。 one time「かつて」 serious water shortage「深刻な水不足」 sanitation department「衛生局」 local state government「地元の州政府」local は「田舎の」ではなく「その土地の」という意味であることに注意。 the local police of New York City「地元のニューヨーク市警」という例からもわかるだろう。 ・come up with an idea「ある考えを思いつく」 ・work「うまくゆく」 love for ～「～好き」 ask people to ～「人々に～するよう頼む」 ask はいつも「訊く」だけではない。 put ～ up「～を掲示する」

< 解説 >

1 大事な動詞は主語の直後（大事な動詞は「本動詞」などとも呼ぶ）

「A が B する」という B の動詞の部分は英語では A の主語の部分の直後に来る。「C を」などと他の要素が必要ならば，その他の要素は動詞の後に来る。これが原則である。日本語では A>C>B という語順になる。

英文を読むときは，この「A が B する C を」という骨組みをとらえながら読むことが大事である。

動詞になりうる形，動詞になれない形については次章以下で詳しく扱う。

2 動詞の前は主語のかたまり

「一番大事な動詞は主語の直後」ということは逆から言えば，一番大事な動詞の前は主語のかたまりということになる。

大事な動詞の前が短い名詞や代名詞ならば問題はないが，かなり長い場合は主語になる名詞にいろいろな飾り（修飾部分）がついていることになる。その部分を「...な～（名詞）」とまとめる習慣をつけなければならない。

「赤いばら」

「花瓶の中の白いばら」

「その少女が手に持っている黄色いばら」
 「私が見かけたときその少女がもっていた1本のばら」
 「詩人が女優に会うときにいつも欠かさず持参した彼女の出身地特産のばら」
 修飾部分がだんだんに長くなっていつているが全部「ばら」の説明である。
 (どんな形が名詞を修飾しうるかは第 4 章で扱う)

3 大事な動詞の後から出てくる動詞は他の部分に絡む

大事な動詞はかなり前に出てくることになるから、さらに**後から現れる動詞は他の部分に絡む動詞**だと思うべきである。

上の英文の下線部 A man in the sanitation department of the local state government **came up with an idea which would work with American people whose love for the shower is well known.** という文の中で、動詞の候補は **came, would work, is (well) known** である。

最初の候補 came は動詞の過去形だから大事な動詞になるには問題がなさそう。直前の部分 A man in the sanitation department of the local government が主語のかたまりになってくれればいい。in the sanitation department of the local government 「地元の州政府の衛生局にいる」が前の名詞 A man を修飾して「地元の州政府の衛生局にいる男性」とまとまるのでこの部分が主語だとわかる。

2 番目の候補 would work は which would work with American people という関係詞の節の中で働く動詞で、この which 節は前の an idea を修飾して「アメリカ人相手にうまくいきそうなアイデア」となる。

3 番目の候補 is (well) known は whose love of the shower is well known という関係詞の節の中で働く動詞で、この whose 節は前の American people を修飾して「そのシャワー好きがよく知られているアメリカの人々」となる。

3つのコツ

1. 大事な動詞は主語の直後
2. 動詞の前は主語のかたまり
3. 大事な動詞の後から出てくる動詞は他の部分に絡む

この3つのことを常に意識するようにしよう。

<全文訳>

カリフォルニアは降雨量の少ない州である。滅多に雨が降らない。
 かつて夏に深刻な水不足に見舞われたことがあった。地元の州政府の衛生局の男性がシャワー好きで有名なアメリカ人相手ならうまく行きそうなことを考えついた。衛生局はポスターをすべての家に送り、それを浴室に貼るよう頼んだ。ポスターにはこう書いてあった：シャワーで歌う歌は前よりも短い歌にしましょう